

7 ま と め

齋 藤 博 英 ， 三 崎 方 郎

現在建設が予定されている父島は、東京の南約 1,000 km 遠方に位置するが、季節によっては本州で人工的汚染を受けた空気が到達することがある。このことは現地の予備観測においても認められた。

これらの空気は、父島附近ではNE N-NWの風向で到達する。一方、父島の島内の人工汚染源は北部の二見湾沿岸部に集中しているので、この風向はまた、島内で発生した汚染を全島に及ぼす風向でもある。

これを裏返して見ると、SE-S-SWの風向が安定する時には、本州の汚染も、父島々内の汚染も、島の北部以外には影響しない可能性が大きい。

特にSE風が持続するのは、太平洋高気圧の南東部に掩われる時で、この時は北太平洋の熱帯海域に永く滞在した空気が到達し、バックグラウンド大気汚染の観測に好適である。したがって、この風を附近の汚染なしで掴めるような地点を選ぶことが望ましい。

1976年の観測結果その他を考慮すれば(2.2節, 4.4節参照)、現段階での第一候補地は、電々公社夜明山送信所から海上自衛隊夜明山送信所の間の東海岸に面する地域と考えられる(図4.11参照)。

次に、人工発生ではないが、海岸線附近で発生する局所的塩粒子の影響もできる限り避ける必要がある。南鳥島ではリーフにおける泡立ちから発生する粒子に島の大半が掩われており、エアロゾル(大粒子)濃度の測定の意義が殆んど失われるばかりでなく、高精度の各種測器の長期保守に危惧せざるをえない状況であった。父島では島をとりまく崖が塩粒子の内陸侵入をかなり防ぐ効果をもつように思われるが、観測資料は極めて乏しく、より詳細な追試を必要とする。

今後の問題としては、候補地点が決定した段階では、より長期にわたる予備観測と、候補地点の周辺に限定した詳細な環境調査を行う必要があると考えられる。

気 象 研 究 所

1946年(昭和21年)設立

所 長 : 理 博 杉 浦 次 郎

予 報 研 究 部	部 長 : 理 博 齋 藤 直 輔
台 風 研 究 部	部 長 : 藤 原 滋 水
物 理 気 象 研 究 部	部 長 : 久 保 次 郎
応 用 気 象 研 究 部	部 長 : 菊 池 幸 雄
気 象 衛 星 研 究 部	部 長 : 工 博 内 藤 恵 吉
地 震 火 山 研 究 部	部 長 : 諏 訪 彰
海 洋 研 究 部	部 長 : 理 博 南 日 俊 夫
高 層 物 理 研 究 部	部 長 : 理 博 三 崎 方 郎
地 球 化 学 研 究 部	部 長 : 理 博 杉 浦 吉 雄

気 象 研 究 所 技 術 報 告

編 集 委 員 長 : 杉 浦 吉 雄

編 集 委 員 : 岡 村 存 和 田 美 鈴 佐 粧 純 男
安 田 延 寿 鯉 沼 正 一 田 中 康 裕
朝 岡 治 北 村 正 亟 杉 村 行 勇

事 務 局 : 小 島 芳 夫 小 山 八 洲 夫

気象研究所技術報告は気象学,海洋学,地震学,その他関連の地球科学の分野において,気象研究所職員が得た研究成果に関し,技術報告,資料報告及び総合報告を掲載する。

気象研究所技術報告は,1978年(昭和53年)以降,必要の都度,刊行される。

昭和53年3月30日発行 ISSN 0386-4049

編集兼発行所 気 象 研 究 所

東京都杉並区高円寺北4-35-8

印 刷 所 東 京 プ リ ン ト

東京都港区西新橋3-24-9